

経済学は難しく、日常生活からほど遠いと思う人が多い。しかしある日突然、自分の身のまわりでいろいろなることが起こり始めたでしょう。たとえば、これまで予想もしなかったこと、あるいはこれまでの安定した、いつでも予測ができた生活を引っくり返すようなこと、もしくは新しく期待だけでなく不安をもたらすようなことである。このようなことが起きたならば、経済環境は日常生活に大きな影響を与え、ひいてはそれが自分の人生を変えるかもしれないと多くの人は感じるであろう。われわれは今日、まさにそのような、急激な変化に備えなくてはならない時代に生きているのである。今の時代は、流れる大河のようなものである。しばらくゆつたりと流れていたものが、突然、激流と化す。それは感動もさせるが、危険でもある。白い波の動きはきれいに見えるかもしれない。だがその下には、鋭い岩が隠れているのだ。

「バブル経済」はおよそ五年間に及んだ。当時、日本人の多くが、いつかは自分も金持ちになれるかもしれないと希望を抱いた。その後の一〇年間に、日本経済は次第に落ち込んでいった。そしてついに、日本政府が公式の場で不況であることを表明したのだった。そう、日本は本物の不況にはまり込んだのだ。そうした出来事は、日本人の日常生活にすべて表れていた。しかしこれは、単なる序曲であったかもしれない。これからもつといろいろなことが日本人を待ち構えてい

る。日本を取り囲む経済環境は大きな変貌を遂げた。日本人は長い間、世界から経済的に保護されてきたが、同じ状態がそう長く続くはずもない。すでに「バブル経済」の時期に、その後のデフレの時期に、日本経済と国際社会との関係にそうした傾向がはつきりと表れていた。今後その傾向がいつそう強まることは明らかである。

つまり、地球上における経済現象の展開が、日本人の生活にもっと大きな影響を与えるということである。この現実から逃れる術は存在しない。したがって今日、世界と世界経済の展開をもっと目を凝らして見るのが、当を得た考えということになる。そのような考えに因應するためにこの本は誕生したのである。本書を読むと、世界経済システムが、最近、非常にダイナミックな動きをするようになり、それが多くの不安定要因を生み出していることが分かる。また最近、「グローバルゼーション」と称されることも頻繁に起きているが、本書では各章を通して、グローバルゼーションの側面や国際経済の新しい現象について、さまざまな角度から検討を加えている。

それはわれわれが少しずつ分りかけてきた、そのような現象を反映する見方や考え方のモザイクでもある。この本がグローバルゼーションや新しい国際経済に関して、あなたの理解を深める一助となれば幸いである。

本書で紹介した私の考えは、とても大勢の方々との会話を通じて形成されてきたものである。あまりにも多すぎて、すべての名前をここで記すわけにはいかないが、強いて言えば、三國陽夫とターガート・マーフィの二人の友人の名前を挙げたい。彼らは長年にわたって、本書の日本に関する見解をまとめる時の、良き話し相手となってくれた。また妻エスネの助言によって、原稿

がずいぶん読みやすくなった。ピーター D・ピーターセン氏は本プロジェクトの初期の段階から関わり、最終的にダイヤモンド社への橋渡しをして下さった。あらためて感謝の意を表したい。編集や調査など日常的な仕事の面でお世話になっている、アシスタントの大久保慶のさんには今回も大いに助けてもらい、感謝している。嶋矢昌三氏と、ダイヤモンド社土江英明氏の編集スキルと彼らの勤勉さには、ただただ驚くばかりである。このような素晴らしい本に仕上げて下さったことに対して、お礼を申し上げたい。

二〇〇〇年一月一日

ワシントンにて

カレル・ヴァン・ウォルフレン